

飛驒高山

残したい

想いと風

高山市
国府町

上広瀬果樹組合 組合長

ふなさか まさのぶ
船坂 正信さん

みんなに喜ばれる飛驒桃を
作り続けてこられたのは

周りの人との助け合いのおかげ
若い人にも伝えていきたいな



上広瀬のおいしい桃

高山市国府町上広瀬で果樹園を営む船坂正信さんは、桃を育てて50年になります。

父親が病気で倒れたことがきっかけで果樹園を引き継ぎ、後遺症が残った父に教わるのができないため、周りの経験者に習いながら桃作りを覚えました。

技術を教え合い、お互いの作業を手伝うなど、果樹組合の仲間と助け合いながら品質にこだわって育てる「上広瀬の飛驒桃」は、高山市の「メイド・バイ飛驒高山」にも認証されています。

ブランド化されファンも多い飛驒桃ですが、後継者不足は深刻です。小学生の体験学習を受け入れるなど、農業の喜びを伝える活動もされています。

上広瀬の飛驒桃づくり

人とのつながりや
助け合いを大切にしながら
おいしい桃を育てています



伝える

毎年、地域の小学生の体験学習を受け入れています。花が咲いてから実がなるまで、3回の体験を通して成長の過程を知ってもらいます。



仲間との助け合い

果樹組合の仲間同士でつくる「助っ人の会^{せんてい}」では、草刈りや消毒、剪定などの人手が必要な作業をお互いに手伝っています。



農閑期の冬仕事

農業が忙しくない冬の間だけ測量の仕事をしたことや、20年ほどタクシードライバーの仕事をしていたこともありました。

加工品への利用



ジュース

道の駅などで販売



船坂さんが育てる桃やりんごは
さまざまな食品の原料としても
利用されています



ジャム

自家用に作って
楽しんでいます



洋菓子



発酵食品(サプリメント)

組合の仲間とともに

昭和32年、地域で桃作り
に力を入れ始めたことを
きっかけに「上広瀬果樹組
合」が設立されました。

少なくとも良いものを作
る「量より質」を大切に、
次の世代へ技術を伝えなが
ら品質を守っています。

組合では講習会を開くほ
か、「助っ人の会」と称して
剪定(せんでい)や草刈り、消
毒などをお互いに手伝います。
「骨折したから、しばらく
畑を頼む」というように、
万が一の事態にも助け合う
ことができるしくみです。

次の世代への願い

現在、組合員である34軒
のうち、後継者がいて今後
も果樹園を続けていける農

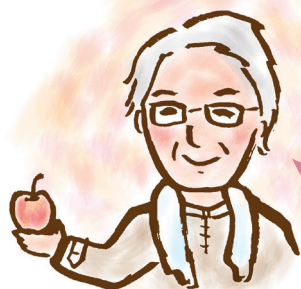
家は3軒しかありません。

東京や大阪の「就農フエ
ア」に出向いて農業をや
りたい人を探したこともあり
ますが、果樹に興味がある
希望者が少なく、実際に飛
騨へ来て作業を経験しても
上広瀬で農業を始めないと
いうこともありました。

果樹農家を一から始める
場合、苗を植えてから収穫
ができるようになるまでに
何年もかかりますが、現在
ある果樹園を引き継いでも
らえば、すぐに収穫ができ
ます。農業をやりたいとい
う人が増え次世代へ繋いで
いけるよう、後継者対策を
模索しています。

また、毎年地元の小学生
の体験学習を受け入れ、実
際に果物の成長を見てもら
うことで、作物を作る喜び
を伝えています。

いま、
伝えたいこと



(文・絵
画) 大森貴
高山市

農業っていうのは**自然が相手**やもんで、うまくいく年もあ
れば、台風で実が落ちてまう年もある。だからこそ、自分が
満足できるものができた時はうれしい。こういう大きな喜び
をいろんな人に伝えたいんやさ。

一人でやろうと思ってもできないことも、**感謝の心**を持っ
ていれば人がついてきて協力してくれる。一番大切なのは「あ
りがとうございます」という気持ちかな。